

もっと！ 市民に寄りそう市政へ！

コロナで福祉の限界が明らかに

立川高校時代、地理の授業で南北問題や貧困問題、児童労働問題などを知って衝撃を受け、「将来は困っている人たちのために生きよう」と思い立ったのが全ての原点でした。

議員生活の4年間でも「コロナ禍で仕事を失いホームレスとなった人」、「経営が厳しくなってしまった商店」等、コロナによって厳しい状況に追いやられている人たちにたくさん出会ってきました。

例えばホームレスになり住民票を失うと定額給付金の10万円はもらえません。コロナでお店の経営が厳しくなっても飲食店でなければ補償対象外の可能性もあります。一見、充実して見える支援施策もそこかしこに制度の狭間が存在しています。

不安な人は更に増えている！

昨年の内閣府の世論調査では、過去最高の8割近くの人が日常生活で悩みや不安を抱えていました。その要因は概ね「老後の生活」、「仕事や所得」、「子育てや進学」の3つとなり、誰もが直面し得る問題です。

またウクライナ情勢や物価高騰など、私たちが当然のように享受してきた平和や生活も今や決して当たり前のもではなくなってきています。悩みや不安を抱えるのは決して特別な人たちではなく、誰もが生きづらさを抱える可能性のある時代であることを改めて痛感しています。

多様な困りごとに寄りそいます！

そんな時代だからこそ、市民に一番近い自治体の議員という立場でできることはたくさんあると感じています。希望を捨てることなく、悲観せず、一緒に市民に寄りそう市政を作っていきます。

平和の尊さを心に刻みたい

ウクライナの戦争は、ひとたび引き起こされてしまったら、軍事基地や原発が真っ先に攻撃され、市民の生活も無差別に攻撃されるなど、想像を絶する悲惨な事態を招いてしまう、そのことを私たちは改めて思い知らされました。

横田基地を抱える立川市も他人ごとではありません。日ごろからの市民の生活を守る平和運動の大切さと、平和の尊さを心に刻みたいと思います。

市政のチェック・提言は議員の仕事です

4年間で14回の一般質問(チェックと提言)の機会をフルに活用



・多様な生き方を応援

同性パートナーシップを提案

市議会で「同性パートナーシップと公的承認についての陳情」が全会一致で採択！
 やや進展！市で多様な性に関する制度検討委員会を設置。しかし市独自では制定の予定はなし…

【その他の取り上げたこと】

市の障がい者法定雇用率の向上/重度障がい者の働く環境の支援/外国人のための日本語教室の拡充/男性の育休取得促進/選択的夫婦別姓に賛成

・気候変動・環境対策

気候変動へのより踏み込んだ対応を要望

×市全体の温室効果ガス排出量削減計画も策定しておらず、待たなしなのに国や都から指示待ちの状態…

生ごみたい肥化の促進や減量施策を提案

○生ごみたい肥化事業の拡大に向けた検討を開始。生ごみ処理機に対する購入補助の適正化も検討中。

【その他の取り上げたこと】

公共施設の使用電力の再エネ化や施設屋上等への太陽光パネルの設置
 根川緑道のせせらぎの保全/マイクロプラスチックへの対応/熱中症対策

・コロナ禍の生活保障

ワクチン接種に配慮が必要な人へのスムーズな対応などを要望

○障がいを抱えた人や在宅医療を受けている人も様々な形でワクチン接種が可能に！

情報提供の迅速化と多様化を要望

○ワクチン情報が防災無線で放送される。また市の公式LINEアカウントを作る方向で準備中。

【その他の取り上げたこと】

PCR検査の補助について/事情があってマスクができない児童・生徒や感染者への配慮/コロナ困窮世帯への支援の拡充/商店への支援施策

・生活困窮者支援

ひきこもりやヤングケアラーなど制度の狭間に陥っている人たちの支援強化を要望

○ひきこもり実態調査を実施。就職氷河期世代に対する就労支援や部署を横断した支援体制の整備が始まる。

【その他の取り上げたこと】

困窮世帯への子どもの学習支援の拡充/生活保護ケースワーカーの増員
 市民霊園などの設置/高齢者の通院支援/住まいのセーフティネットの強化

これまでの4年間の活動をマンガにしました！



詳しくは右記 QR コードから！⇒
 ホームページ等をご覧になれない方は、紙に印刷したものをお送りいたしますので、お気軽にご連絡ください！

登場人物

山本ようすけ
 不器用で演説とか超苦手。最年少の立川市議会議員となり、やさしい街・立川をめざす。基本的にいつも悩んでいる。

里見
 アナウンサー。選挙を機に山本の活動を見守ることになる。山本とは真逆の性格。